

農業高校での取組事例（新潟県立新発田農業高等学校）

◆ 新発田農業高校の農作業事故ゼロを目指すプロジェクトチームでは、農業機械による事故の発生状況を明らかにし、今後の農作業事故ゼロを目指すため、

- 農業者へのアンケート調査
- 農業機械での転倒・転落事故が多いことから、自ら転倒体験装置を作成し、危険を身をもって体験する等、事故防止に必要な取組を検討されました。



転倒体験装置

◆ 検討の結果は、調査協力機関（市役所、機械メーカー等）に提供するとともに、今後は、

- 高校内での安全講習会の開催
- 学校で取り組んでいるG A Pの取組が農作業安全に有効であることから、G A Pの遵守の推進

等、農作業中の事故防止に取り組むこととして



調査協力機関へ
情報提供

◆ このほか、農林水産省で開催した秋の農作業安全確認運動推進会議において取組の発表、学園祭での安全講習会の開催に取り組んでいます。



秋の農作業安全確認運動推進会議
平成29年8月10日



学園祭（稲穂祭）での安全講習会
平成29年10月28日



（農業高校向けリーフレット）

安全な農作業について考えてみましょう

一人ひとりの安全意識と仲間との「声かけ」が農作業事故を防ぎます



農作業中の死亡事故はこんなに起きています！

◆ 農作業中の死亡事故は、近年は350件前後発生し、他産業と比べても多い状況です。(平成27年調査:338件)

◆ 特に65歳以上の高齢農業者の事故が多いですが、死亡に至らない事故(ヒヤリ・ハット体験)は、高齢者に限らず発生しています。

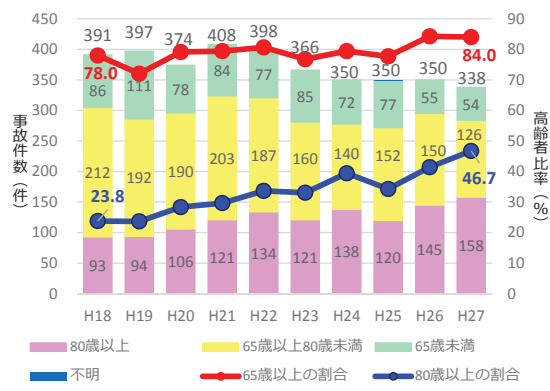
◆ 最近でも、若い担い手の事故が発生しています。
 ◆ フォークリフトで搬送中、横転し下敷きになって死亡(20代)
 ◆ 刈払機で草刈り中、近くにいた人の刃がキックバックし腕を裂傷(10代)

◆ 事故の原因は、農業機械が全体の約6割、その中でも乗用型トラクターでの事故が多いです。

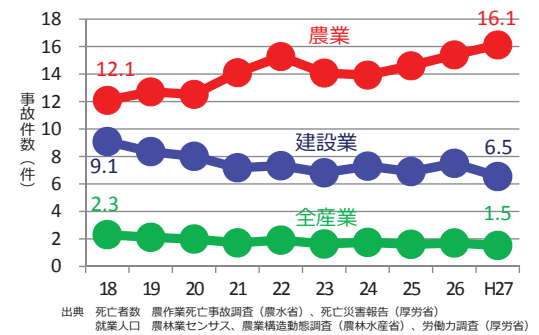
◆ 私たちが大切にしたい農業は、大変危険な作業を伴う職業です。まずは、はじめやすい安全対策から取り組んでみてください。



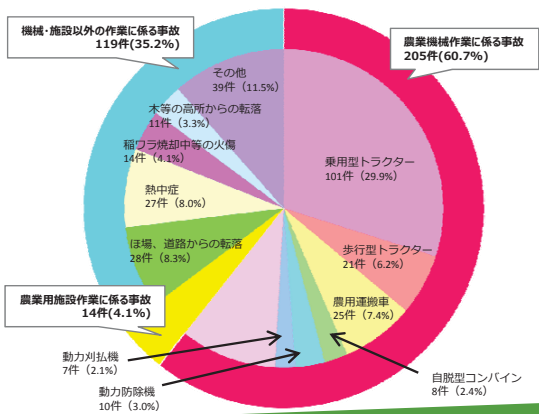
農作業死亡事故の発生状況



10万人あたり死亡事故発生件数の推移



農作業死亡事故の内訳



農作業安全に取り組むヒント

安全な農作業に取り組むためのヒントを紹介します。ここに掲載できなかった大切な項目もあるので、農林水産省のHPを参照するなどして安全確保につなげてください。

乗用型トラクター

- 安全キャブ・フレームのついたトラクターを使用し、シートベルト・ヘルメットを着用するようにしましょう
- 安全に通行できるよう、環境を整備しておきましょう

安全フレームは必ず立てて使用する

ヘルメット
シートベルト

例 農道周辺

脱輪防止やすれ違い時の安全のために道路の幅を標示します。
 すれ違いや回行場所を決めておきます。
 路肩が分かるように時々草刈りします。
 危険力所には棒や標を設置します。
 角を隅切りし、カーブミラーを設置します。

歩行型トラクター

- 後退時は必ず後方確認するようにしましょう
- 安全装置のついた機械を選ぶようにしましょう

目印のリボン
看板
後方確認

後退する場所に目印や看板を設置しましょう

例：デッドマン式クラッチ

クラッチレバーを握っている間は動力が伝達され、手を離すとクラッチレバーが自動的に戻って動力が切れる構造のクラッチ

刈払機

- 事前に環境を点検・整備しておきましょう
- 安全な服装で作業を行うようにしましょう

飛散防止のため、作業現場の異物を取り除いておきましょう

転倒を防止するため、足場をつくりましょう

保護メガネ(ゴーグル) 保護帽(ヘルメット)
 作業衣(長袖) 耳覆い(イヤーマフ)
 腕カバー 防振手袋
 作業衣(長ズボン) 滑りにくい作業靴(先しん入り)
 すね当て